

ヘリコプターによる調査訓練を実施しました!!

～ 「岩手・宮城内陸地震」の教訓を災害対応に活かすために ～

県土整備部 災害対応検討会議 第二部会（道路環境課）

県土整備部災害対応検討会議第二部会では、災害時における初動調査においてヘリコプター調査が有効であることから、平成22年8月24日（火）に、ヘリコプターによる調査訓練を実施しました。

今回の訓練は、役割分担、写真・動画撮影の方法、データの取りまとめなど、体験を通して効率的な調査方法を把握することを目的に実施したものです。訓練はいわて花巻空港～久慈市～宮古市～いわて花巻空港の約2時間のヘリコプター調査（半崎（港湾） 諏訪下（港湾） 久慈川河口～長内川合流点、中清水の沢砂防堰堤、岩泉平井賀普代線太田名部、国道106号宮古市片巢の法面の工事状況を対象に調査）調査データの取りまとめ、事後打合せという工程で実施しました。

調査データ取りまとめ後の打合せでは、1回の飛行（約2時間）をより有効にするため、事前に地形図で撮影対象物などを十分把握したうえで調査に臨む必要があること（目印となる交差点や構造物も併せて把握）ビデオカメラとカメラでは写る範囲が違うので、その違いを理解したうえで、調査すること、カメラ機器、バッテリー、記録メディア（DVD）の予備が必要であること、また、機器選定にあたっては、機器の起動が速いものが良いこと等、具体的な改善が提案されました。

当日は天候に恵まれ、安定した気流の中での調査でしたが、大部分の調査員が乗り物酔いになるなど、調査には慣れが必要であることも明らかになりました。今後も計画的な調査訓練により、経験者を増やして、有事の際の準備を進めていきます。



県土整備部災害対応検討会議とは？

平成20年6月14日に発生した「岩手・宮城内陸地震」による災害対応の教訓を、今後、高い確率で発生が予想されている「宮城県沖地震」への対応に活かすべく、平成21年4月に県土整備部内に設置した検討会議。「宮城県沖地震」への対応の検討や訓練の実施等を行っている。